

「今の自分にできること」

高井駿

私は令和8年の夏、日高市の児童氷遣事業
で広島平和記念式典に参加しました。こねま
で、私にとっての「戦争や原爆」は、学校の
社会科の授業やテレビのニュースの中だけの
話でした。「かわいそうだな」「怖いなあ」
とは思ってたけれど、どこが大昔の出来事であ
って、自分には関係のないように感じていま
した。言葉だけで「戦争はダメだ」と言われ

ても、本当の意味ではよく分かっていなが
たのだと思います。
でも、広島平和記念資料館の「魂の叫び」
というコーナーに入った時、ガラスの向こう
にあつた、三人の中学生の遺品の前で足が
動けなくなりました。そこには、ボロボロに
焼け焦げて泥がついた制服が展示されていま
した。それを見た瞬間、体中が「ゾッ」と
して、冷や汗が出るような感覚になりました。
この制服を着ていた人は、今の私と2、3才

しか変わらないう普通の学生さんです。あの
日、あの朝も「行」てきます。し言て、私
たちの日常と変わらないう笑顔で学校へ向か
たはずでう。それなのに、思もよらないう、
た「た」発の原子爆弾で、熱くて苦しくて、
お母さんやお父さんにもあえないうまま死んで
しま「た」のだと考えたら胸の奥が「ギューッ
と苦しくなりました。あまりにも生々しくて、
その場に「子」のが辛くなり、少し気分が悪く
な「て」しま「う」ほどショ「ッ」リでした。

その後、私の心にはモヤモヤとした疑問が
浮かびました。戦争が「んな」に悲惨で、誰も
幸せにならないうなんて、世界中の大人たちは
みんな分「か」て「いる」はずでう。みんなが「戦
争」はしては「い」けないうと知「て」いるのに、
どうして今でも戦争は無「く」ならないうのだらう。
と思「い」ました。どれだけ考えても答えが「見」つ
かりません。

今の私には、世界中の戦争を止めるような
ことはできません。でも、できないうかと言「っ

て、広島に行く前の自分に戻りたくはありま
せん。まずは、今の自分にできる小さなこと
から始めようと思います。

家族が学校の友達に広島で見てきた「戦争
の悲惨さ」と平和の大切さをしっかりと伝えた
りです。また、お互いの気持ちをみとめ合い、
友達どうし仲良くすること、みんなが幸せ
に生きることにつながれば、戦争を無くすこ
とにもつながると思います。身近な今の私
にできることから始めたいと思います。

平和は教えらるるものではなく、自分でつ
くりだすものだと気づきました。

最後に「戦争と平和について」深く学び
たいことをいただき、本当にありがとうございました。
ました。